



リニア開業に伴う新たな圏域形成に 関する関係府省等会議（第3回）

リニア開業に向けた山梨県の取組について



■県内工事の進捗状況について

- ・ 県内延長約83キロのうち、約 8 割が工事契約済み。
- ・ 山梨県駅（仮称）が令和 8 年 3 月に着工。 ・ 釜無川橋梁については、橋脚工事が完了し、現在は上部工の工事が進められている。
- ・ 南アルプストンネルでは、5 月 1 3 日に品川方の本坑が貫通し、名古屋方は県境手前 6 1 m まで先進杭の掘削が進むなど、県内工事は総じて順調。

【山梨県内リニア路線図】



※JR東海提供のイメージ図

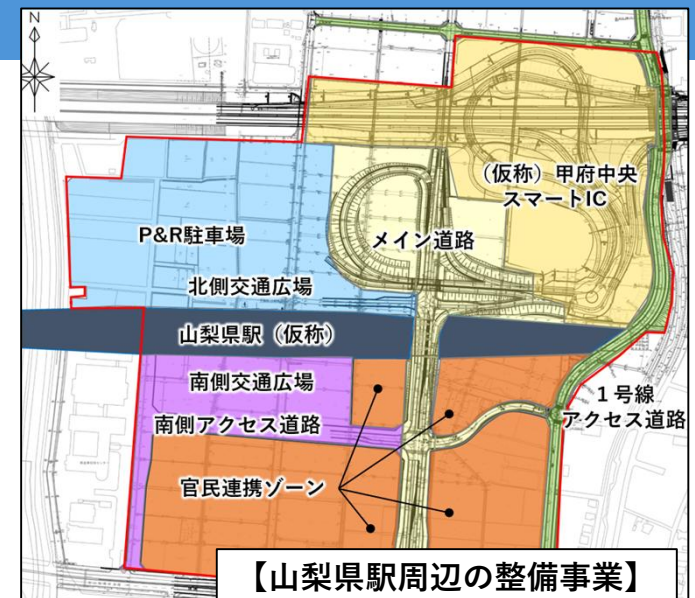
■本県の取組（リニア駅周辺地域のまちづくり）について

< リニア駅を中心とした交通結節点の整備 >

- ・ リニア駅と中央自動車道をスマートインターチェンジで接続
- ・ ニューモビリティを活用した新たな公共交通網の検討

< 自然環境と調和した都市空間の形成 >

- ・ 関係市町村と連携し、「緑」を基軸に、豊かな自然環境と調和した山梨ならではの都市空間の形成



リニア駅と
富士山が直結



利用者数の増加



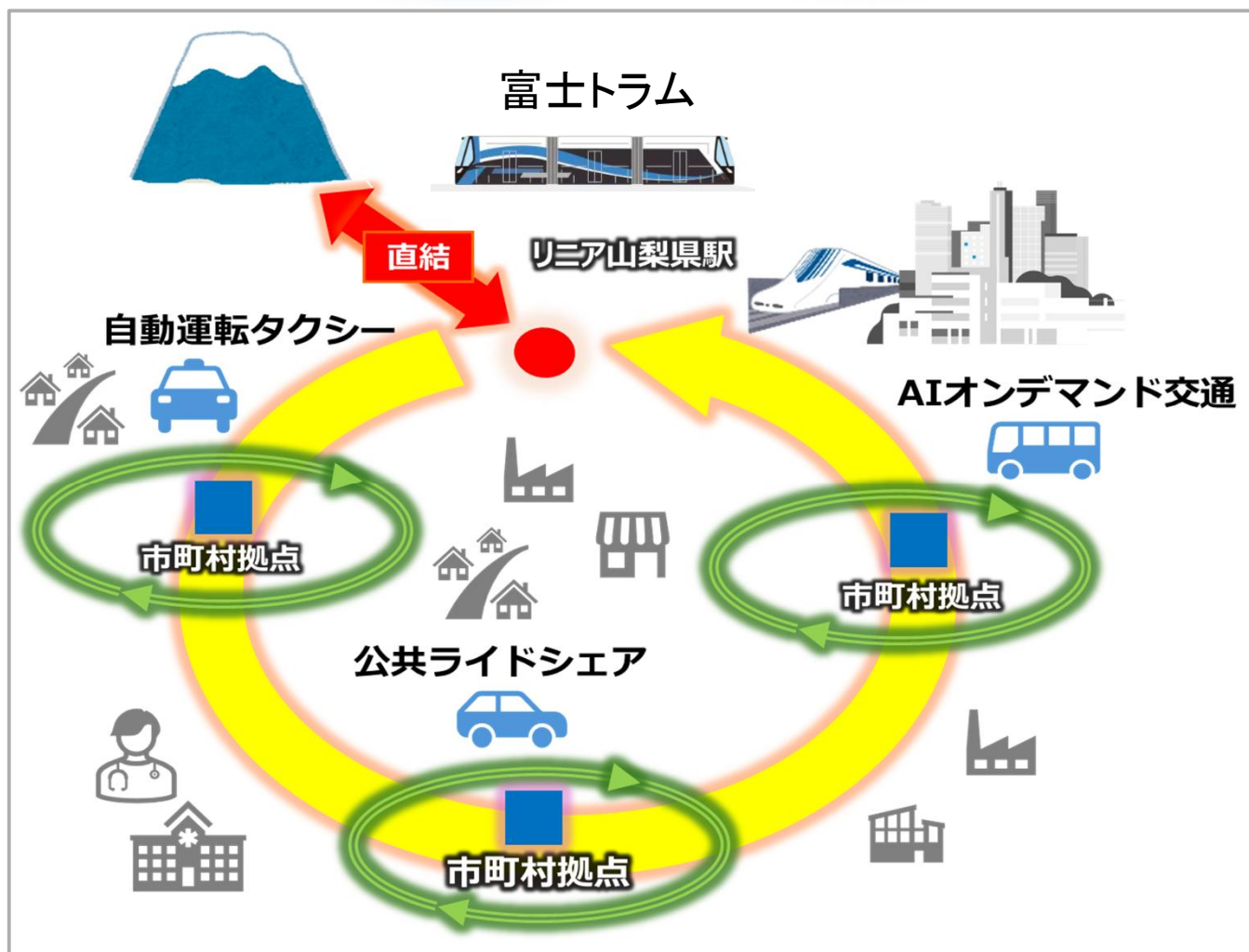
停車本数の増加



利便性の向上



リニアが
普段使いできる乗り物へ
【開業効果の最大化】



富士トラムを核とした
二次交通の新たな基幹路線の推進



交通拠点から先の
ラストワンマイル需要への対応

地域特性に応じた多様な移動手段の
最適な組み合わせ

- ・ 自動運転タクシー
- ・ AIオンデマンド交通
- ・ 公共ライドシェア 等



交通弱者などの県民の利便性確保
観光、地域経済の活性化

■ 研究開発拠点の集積 ⇒ 実証の積み重ね ⇒ 製造拠点の立地

- ◆ サントリー天然水
南アルプス白州工場・白州蒸留所
(国内最大規模16メガワットのP2Gシステムを導入)



- ◆ 山梨大学 水素・燃料電池
ナノ材料研究センター
(世界最高水準の研究開発拠点)



- ◆ 県産業技術センター
(燃料電池の性能評価事業)



- ◆ カナデビア都留工場
水電解スタックの量産工場
(令和10年度完成予定)



- ◆ HySUT水素技術センター
(水素STの技術研究開発)



- ◆ 県企業局電力貯蔵技術研究サイト
(やまなしモデルP2Gシステムの実証)



- ◆ 米倉山次世代エネルギー研究開発ビレッジ (Nesrad)
日本を代表する燃料電池評価機関である
FC-Cubicなど世界最先端の研究を行う9団体が入居
(令和5年3月開所)



【凡例】

- 研究開発拠点
- 実証拠点
- 製造拠点



山梨大学 水素・燃料電池ナノ材料研究センター ～世界的にも最大かつ最高レベルの燃料電池材料研究拠点～

- 約半世紀にわたる燃料電池研究
コア部分の電極触媒、電解質膜において世界トップレベル
- 大学論文数 国内No.1



実証研究の拠点「米倉山」

- やまなしモデルP2Gシステムの実証
米倉山産グリーン水素の供給先は、現在15箇所に増加
- Nesradにおける技術者交流
- HySUTにおける水素ステーション技術研究開発



燃料電池の性能評価

- セル評価・解析技術開発に、2015年度から参画
- FC-Cubicと県産業技術センターの連携により燃料電池の高性能化・低コスト化・生産性向上を支援



カナデビア株式会社の県内進出

- 令和6年11月、都留市にP2Gシステムの心臓部
「水電解スタック」の量産工場新設が決定



サントリー（白州工場・白州蒸留所）実証開始

- 令和7年10月、
国内最大規模16メガワットのP2Gシステムを導入
本年度までにサントリー白州工場など県内外6箇所で稼働予定